

全ての学級で 少人数指導が実現 中学校の数学と英語

今年度から、中学校の数学と英語の両教科で、1～3学年を通して全ての学級で少人数指導を行っています。県内の市では、最も先行した取り組みです。

両教科は個人差が付きやすいため、きめ細かで丁寧な指導が有効で、非常勤職員を14人配置することで実現できました。

少人数指導とは、学級を分割して指導をしたり、同一の学級を複数の教師が協働で教えたりする形態のことです。学習の基礎・基本を定着させるとともに、授業への理解が深まり、落ち着いた環境のある学校生活を送ることができるという効果が確認できています。

「少ない人数で授業に集中することができる」「質問がしやすい」という生徒の声や、「一人一人に目が行き届き、個々の課題に対応できる」「落ち着いた環境で指導が行える」という教師の声を聞くことができます。

来年度以降も、よりきめ細かな指導を行い、両教科の基礎・基本の定着を図ります。

図学校教育課 ☎70・5654。



学びづくり運動の様子



生徒のグループワークを参観
(春日台中の研究授業)



黒板を使って考えを伝え合う道徳
(落合小の研究授業)



参観後、小グループに分かれて協議
(土棚小の授業後の研究会)

各教科の結果から見える本市の児童・生徒の状況
国語、算数・数学、理科の各教科に関する本市の結果は、全体の平均正答率が全国平均をやや下回っているものの、全国との差は昨年度に比べ縮まっています。
教科別では、国語は小・

子どもが考えたことを発表する授業や、グループやペアで意見交換をしながら自分の考えを見直したり、深めたりする学び合う授業を大切にしています。
今年度は、春日台中学校、落合と土棚の両小学校を研究実践推進校として、他の小・中12校を研究実践協力校として、研究を進めま

②学習習慣・生活習慣の確立

「パッチリ(早く起きよう)」「モグモグ(朝食をしっかりと食べよう)」「コツコツ(時間を決めて毎日家庭学習をしよう)」「グッスリ(早く寝よう)」を合い言葉に、家庭と連携して子ども

手引きには、家庭学習でつけさせたい力や学習の意義、教師の指導と支援やさまざまな取り組みの紹介など、年度末に完成する教員向けの家庭学習の手引きを、全ての教員に配布し、活用していく予定です。

今後、懇談会や家庭訪問・面談などの機会に、子どもたちの家庭学習について情報を共有するなど、学校と家庭との連携がより深まることを期待されます。
図教育指導課 ☎70・5660。

今年度は、宿題の出し方や課題の与え方・家庭との連携の仕方など、教員側の課題について研究しました。各校の学びづくり推進委員で組織する連絡会議を6回開催し、大学教授を講師に招いて家庭学習の考え方や他地域の取り組み事例などの研究を行いました。

だがある他、家庭との連携について年間のスケジュールなどを示していきます。
図教育指導課 ☎70・5660。

学びづくり運動 生活リズム大作戦

パッチリ



6時30分までに起きられるようにしましょう。

モグモグ



朝食をしっかりと食べよう。

コツコツ



家庭学習の開始時刻を決めて取り組もう。

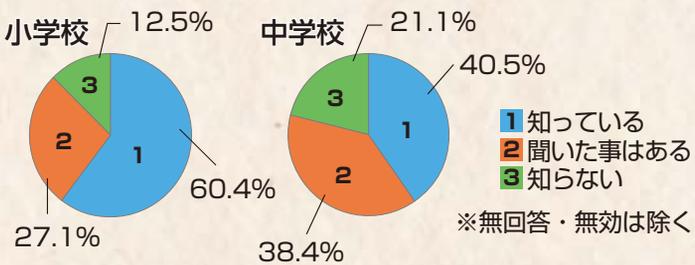
グッスリ



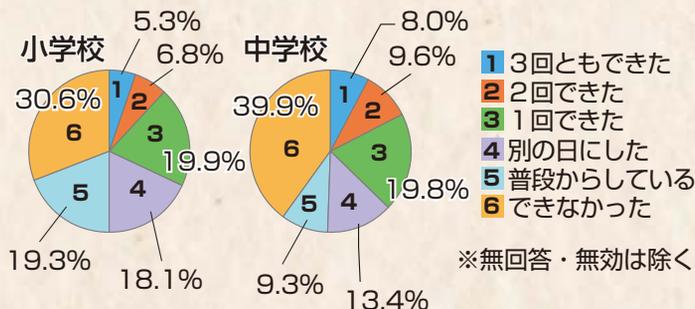
22時までには寝よう。

【26年度アンケート結果】

■ゼロの日運動を知っていますか



■前月はゼロの日運動を行いましたか



あやせゼロの日運動は、10日・20日・30日といった毎月ゼロのつく日にテレビやゲームを一休みし、親子で読書をしたり、団らんしたりするなど、家族でふれあう時間を充実させる取り組みです。子どもたちの成長に望ましい生活習慣を定着させ、豊かな心を育むとともに、確かな学力の向上のために「あやせ学びづくり運動」と連携して、24年度から行っています。

図生涯学習課 ☎70・5658。

小学生の課題

テレビやゲームの利用時間の見直し

普段、電子ゲームをしている時間の少ない児童は、教科の平均正答率が高いという結果が見られます。長時間の利用にならないよう約束を決めるなど、利用時間の見直しが必要です。

家庭学習の充実

テレビやゲーム、携帯電話などの利用時間を見直し、家庭学習の時間を確保することが必要です。また、進んで学習できるように、子どもの頑張りを認めるような言葉掛け、励ましをお願いします。

家族のふれあい充実へ あやせゼロの日運動

に実施したアンケートの結果からは、運動の認知度・実施率は上がっているものの、向上の余地を残していることが分かりました。